



東京多摩プロバスニュース

第 86 号



■事務局: 〒206-0021 東京都多摩市連光寺 3-31-3 滝川方 ■編集・発行: 広報委員会 2019. 9. 4.
■電話・FAX (042) 372-2238 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

共に学びながら、高齢化社会に貢献しよう

第 16 期 定期総会、第 181 回 定例会

日 時 : 令和元年 7 月 3 日 (水) 午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館 第 2 学習室

お客様 : 小林務様

出席者 : 22 名(会員数 25 名)

第 182 回 定例会

日 時 : 令和元年 8 月 7 日 (水) 午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館 第 2 学習室

お客様 : 四街道 PC 丸井定郎様、小島浩平様

出席者 : 24 名(会員数 28 名)

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする



ごあいさつ



「元気で、人生 100 年時代を迎えましょう」

北村克彦会長

令和元年 7 月、我が東京多摩プロバスクラブは、第 16 期を迎えました。

改めて我が多摩プロバスクラブの現状について考えてみます。会員の数は、創立時 15 人でしたが、この 15 年間では第 6 期と第 7 期の 35 人が最大で、現在、第 16 期を迎えて、休会 3 人を含めて 27 人です。そして平均年齢は 77 歳です。

世界保健機構の定義によれば、超高齢化社会とは、65 歳以上の高齢者が占める割合が 21%を超えた社会ですが、日本では 2007 年に既に超高齢化社会に突入しています。多摩市は 50%に迫る勢いです。

そんな状況を踏まえて、私達ができること、期待されていることは、先ず私達高齢者が、社会に負担をかけない事、つまり元気であることです。肉体的な老化はどうしようもありませんが、心は若く保つことです。

人生 100 年時代です。豊かな人生経験を持っているとは言いますが、まだまだ学ぶことはあります。そういう観点から今期のスローガンを「共に学びながら、高齢化社会に貢献しよう」とさせていただきました。

クラブとして活動していくには、会員それぞれが互いに知恵を出し合い、補い合って和やかな組織を作り上げて行かなければなりません。会員同士の考え方、経験などを話し合う中で信頼関係を築き、楽しみ、地域実態を学びながら、また、他のプロバスクラブとの交流を図りながら、地域社会への奉仕に結び付けていきたいと考えます。

また、地域での活動をするに当たって、あるいは、新しい会員を誘うに当たって、プロバスクラブが、まずは「面白そう」と感じてもらい、やがて「もっと知りたい」と思ってもらわなければならないと思います。

私達も、もっと楽しみましょう。



Y 字橋 ; 尾根幹線を跨ぐ Y 字橋で三方向からアクセス可能な橋。

◇◇◇ 第16期定期総会 ◇◇◇

第16期定期総会(令和元年度)が7月3日(水)午後1時30分より関戸公民館第2学習室で開催された。

総会は、議長に鈴木達夫会員・書記に飯作金彦会員が選出されて審議に入り、第1号議案から第6号議案まですべて異議なく承認された。

第16期の新役員と活動方針の概要は下記の通り。

1. 令和元年度新理事・監査

会長	北村克彦
副会長	高村弘毅
幹事	秋山正仁
会計	藤寄喬子
総務委員会委員長	滝川道子
研修・親睦委員会委員長	滝川益男
地域奉仕委員会委員長	澤雄二
広報委員会委員長	登坂征一郎
監査	増山敏夫



新任の役員；左から藤寄会計・滝川(道)総務委員長・澤地域奉仕委員長・高村副会長・北村会長・秋山幹事・増山監査・滝川(益)研修・親睦委員長・登坂広報委員長各位

2. 令和元年度基本目標と活動方針 北村克彦会長

〈スローガン〉

「共に学びながら、高齢化社会に貢献しよう」

1) 基本目標

お互いの豊富な経験をもとに、それぞれの個性を認め合い、高齢化社会に向かって学ぶべきは学び、プロバスライフを大いに楽しみながら、健幸な地域社会に貢献しよう。

2) 活動方針

① 互いの知恵を出し合い、補い合って和やかな組織を作り上げて行く。

- ②各委員会の枠に拘わらず、活発な意見の交換に努める。
- ③他のプロバスクラブとの交流を行う。
- ④地域が求めているものを見出すためにも、地域の活動にもできるだけ参加していく。
- ⑤同好会の活性化を図る。
- ⑥共に活動して頂ける会員の増強に努める。

3. 各委員会の活動方針

1) 総務委員会 滝川道子委員長
基本方針を踏まえ、幹事・各委員会との連携のもとにクラブ全体の円滑な運営、計画の実行に努力する。

2) 研修・親睦委員会 滝川益男委員長
「令和に学びオリンピックに学ぶ」をテーマとし、オリンピック会場となる東京ベイゾーン見学や、バスツアー等による親睦を進める。

3) 地域奉仕委員会 澤雄二委員長
ふるさと多摩を楽しく明るい安心なまちに、そして若者のまちに創生、再生していく。

①多摩プロバス寺子屋塾の創設

②多摩市福祉協議会との連携など

4) 広報委員会 登坂征一郎委員長
定期的に会報を発行するとともに、ホームページのメンテナンスをして最新情報に努め、当クラブの広報面での諸活動を行う。



総会終了後の7月3日(水)夕刻、恒例の懇親会を京王クラブで開催した。秋山新幹事による元気一杯の司会第一声から始まり、藤寄喬子・瀬尾日出男両会員のカラオケ司会などで大いに盛り上がり、第16期への新出発となる和氣満々の懇親会となった。参加者22名。(滝川益男会員記)

◇◇◇ 幹事・委員会報告 ◇◇◇

1. 幹事報告

秋山正仁幹事

1) 新理事の挨拶関連

- ・7月16日(火) 東京多摩ロータリークラブの例会に三役が訪問、就任挨拶をした。
- ・7月17日(水) 多摩市役所・関戸公民館等を訪問、就任挨拶をした。
- ・8月11日(日) 永山公民館(ベルブ永山)にて、ワールドキャンパス in 多摩主催の文化体験・ありがとうイベントに参加した。

2) 新年度の会員構成(敬称略)

- ・新入会員の3名を歓迎する。
小林務、阿部華歌、小島明。
- ・会員 28名(内休会2名 大澤亘、所敏行)。
- ・会友 5名 青木ひとみ、池田寛、瀬尾日出男、永島仁、蓮池守一。

3) 今年度のスケジュール確認

- ・定例会は第一水曜日、但し1月と5月は第二水曜日に、理事会は毎月最終水曜日。但し4月は第4水曜日とする。

◇◇◇ 幹事・委員会報告(つづき) ◇◇◇

4) 各種友好団体よりの会報等について

従来は毎回の理事会・定例会で回覧してましたが、常時ミーティングルームのロッカーに保管します。自由に閲覧下さい。

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

滝川道子委員長

・8月例会出席者数 会員数 28名中 出席者 24名、欠席者 4名

- ・名刺作成の件 例会で全会員に呼びかけ発注済み。
- ・9月卓話予定 「私のゴルフ人生」 飯作金彦会員

2.2. 研修・親睦委員会

滝川益男委員長

今期のテーマを「令和に学びオリンピックに学ぶ」とし、東京近辺を中心に、皇室関連の催事への参加、2020年オリンピック会場となる東京ベイゾーンへのバス見学会など計画中です。視察船「東京丸」で東京湾内を一周の後、「東京ビッグサイト見学会」の食堂街で昼食をとり、お台場周

辺の諸施設を見学の予定です。参加予定者は8月7日現在19名です。

2.3. 地域奉仕委員会

澤雄二委員長

- ①「乞田川と多摩市の水環境」; 8月、9月は高温のため、実地調査は取り止め、座学とする。
- ②市民企画講座のテーマの候補にシンポジウム「多摩市の創生、再生」を加える。
- ③9月14日(土)にアフリカ外交団のドリームチームと多摩市民の親善試合を「南豊ヶ丘サッカーフィールド」で行う。当クラブも応援をする。
- ④ボランティアセンターの連絡会に増山敏夫会員が参加した。次回9月は上田清会員が参加の予定。

2.4. 広報委員会

登坂征一郎委員長

隔月毎、会報の編集、発行、並びにホームページの更新を実施する。

9月4日第183回定例会に、会報第86号を発行する。

◇◇◇ 講 話 ◇◇◇

講話テーマ「人生百年時代の到来」の前半の、80歳を超えて百歳までに何をするか?大橋氏が自ら介護士の資格取得にチャレンジし、介護のあるべき世界を追求するという考えに至ったことを当会報第85号に記載。今号ではその後半として、人生百年時代に健全な高齢化社会に貢献していくためには、心身ともに健康で自律的かつ前向きにチャレンジし、目標づくりや健康法など具体的に解説頂いた示唆に富んだ内容をまとめさせていただきました。(登坂征一郎会員記)

「人生百年時代の到来」(後半)

経営コンサルタント 大橋周治氏

○目標に向かい真摯に取り組めば……

一般的に80歳ともなると、介護される側にとわれがちで、介護する側になるというチャレンジに、関心をもって迎えて下さる方もいる。身体的には衰えるが、目には眼鏡、耳には補聴器、歯には入れ歯、頭にはパソコンと機能を補ってくれるものが、時代とともに進歩もしてくる。スマホは自由自在に活用している。介護訪問の実習には自転車は不可欠で、これも自在に乗れるよう練習も重ねた。

○まずは心身ともに健康であることが不可欠

師と仰ぐ中村天風氏は生涯現役を目指すには、体力・胆力・決断力・実行力・精力・能力を磨け……と。

心身鍛錬で自然治癒力により病を克服することを説き、実際に大怪我をしたときに実行し直したことがあります。

○現在実行している健康法として、体の健康、頭の健康、心の健康を頂点とする三角形を形成

①体の健康には、「すこやかだ」;す:酢の物、こ:小魚、や:野菜、か:海藻、だ:大豆蛋白を毎日食べる。

②頭の健康には「あいうえお」;あ:いつもアイデアを考える、い:インタレスト、何事にも関心を持つ、う:ウォーク、現場に出かける(足を運ぶ)、え:エキサイト、集中する、お:オーナーシップ、責任を持つ。

③心の健康には、

- ・5つの「あ」;慌てず、焦らず、諦めず、当てにしないで(一人でもやる)、侮らず(他の協力も得る)。

・4つの「気」;元気、陽気、勇氣、活気。

以上を念頭に心身の健康増進・維持を実行。

例えば「勇氣」、80歳になって今迄の物を脱ぎ捨てて新しいものにチャレンジする。自分で方向転換する。日野原重明さんは、百まで生きるのなら80で裸になれと……。また、「陽気」になれば人が集まってくる。知恵も出るなど相乗効果も上がり人との関係が豊かになる。

○私の目指す先人;

・宮沢賢治を尊敬;「雨にも負けず」には、介護士・ケアマネージャー・弁護士・調停委員・教育者などのモデルを示唆している。

・中村天風;30歳位から魅力を感じ傾倒する。是非、中村天風著『中村天風一日一話』を手にとってほしい。

・サミエル・ウルマン;40歳位から経済界を風靡。「青春とは人生のある期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ。優れた想像力、逞しき意志、怯懦を却ける勇猛心等々」年齢ではなく心構えということに感銘を受けた。

○大橋周治氏の略歴;18歳で公認会計士第1次試験に当時最年少で合格、21歳で同第2次試験、28歳で同第3次試験に合格。22歳~63歳定年まで日本能率協会経営コンサルタントに従事。定年後~現在、ライオンズクラブでネパール、アフガニスタンに学校施設寄付・募金活動等を展開。

目下、介護で社会貢献をしたく介護の学習中。介護初心者コースを修了、介護福祉士養成コース、実務実習中。

- ・信条;明るいこと、なんでもチャレンジすること、百歳まで元気でいたいこと。(文責 登坂征一郎会員)

四街道プロバスクラブの丸井定郎顧問(元会長)をお招きし、講話を頂きました。丸井氏は長年にわたり後楽園球場(現(株)東京ドーム)支配人を勤められ、その豊かな経験から日本球界の名士のエピソードを数々語られました。

「プロ野球裏話」 四街道 PC 顧問 丸井定郎氏

○三原脩さん；プロ野球契約第1号の人で、東京巨人軍の選手から西鉄ライオンズの黄金時代を築き、水原巨人と三原西鉄は日本シリーズでは熾烈な戦いを繰り広げました。



プロ野球には、記者たちが監督を囲んで取材するいわゆる「囲み」というものがあって、ある日、三原監督が記者たちに「皆さん、ちょっと失礼」と言うと、ベンチのほうへスタスタ歩いていく。そして「大下(大下弘選手)、ちょっと手を見せろ」。大下は、いくら親父さん(監督)でも野球選手にとって手は命の次に大事なものですから、思わず手を後ろへ隠した。「何してるんだ!」無理やり手を出させる。と、その手をポンと叩いて「よし判った」。戻ってきた三原監督に記者たちが「どうしたんですか」たずねると「いやあ、手にマメがいっぱいあった。固いマメがね」。大下というのは大酒を呑んで、練習はちょっとしかやらずにホームランをかつ飛ばす天才、といわれましたが、事実は違っていたんですね。夜中、密かに素振りをしていたのです。

○水原茂さん；昭和23年に復員し戦闘帽で「水原茂ただいま帰りました」と挨拶。この時の色黒の写真はいまも残っています。後に緑ヶ丘のお宅にゴルフのジガーをお届けし、お礼にオールドパーを一本貰ったことも。

○川上哲治さん；監督時代の給料袋が(高額で)縦に立ったのには、びっくりした記憶があります。また巨人軍納会のゴルフでこの私がホールインワンをやってしまい、引退直前だった川上さんから温かい祝福を受けました。

○長嶋茂雄さん；「長嶋引退セレモニー」の日のこと。近くの富坂警察署から連絡があって、とにかく長嶋を場内一周させないよう、子供たちが外野のフェンスから飛び降りてケガをしないように、と。球場支配人の私は非常に心配して、当時、長嶋さんをミスターと呼んでいまし

たので、「ミスター、とにかく場内一周はしないでください」と言うと「丸ちゃん、わかったよ」。ところが係から連絡があって突然、長嶋が場内一周をはじめたとのこと。見るとミスターはこう手を挙げて、一塁ベースの向こうへグラウンドを周っていく。あれほど約束していたのに!誰かが飛び降りやしないか、私はそればかりが心配でしたが、ライト側からレフト側へ、それから三塁側へ、ともかく無事一周し終えたので、ホッとしてふとバックネット裏を見ると、三人のお婆さんが長嶋を拜むように手を合わせている。ああ、長嶋茂雄は子どもたちから高齢者まで、ほんとに幅広い人気があるんだな、つくづくそう感じたものです。

○王貞治さん；夜中の12時頃、宿舍の二階で密かに素振りをしているシルエット(障子に映った姿)を通りがかりの記者に見られていた——そんなエピソードもある王さんですが、ある日さりげなく、グリップエンドに「1」のサイン入りバットを私に差し出されました。引退発表4日前のことで、それが最後の挨拶だったことを後に知りました。

○千葉茂さん；猛牛の異名をとった千葉さん。試合後、後楽園の風呂に入った後は必ず湯船に石鹸が5、6個転がっていました。石鹸を浴槽で使っていたんですね。

○青田昇さん；「わしゃ特攻隊くずれや」という豪放磊落な人ですが、葬儀場は四谷近くの聖イグナチオ教会でした。あれほどの猛者が、亡くなる前は洗礼を受けていたのです。

○牧野茂さん；川上さんが連れてきた巨人軍の「参謀」で、いまでは当たり前の「フォーメーション」を初めて日本球界に採り入れた知将でした。

○金田正一さん；芸能界にも人脈が広く、美空ひばりさんや石原裕次郎さんを紹介してくれました。

○吉田義男さん；「いま牛若丸」と称された阪神の名ショート。夜中に宿舍の離れで左手にグローブ、右手にボールを持って「ポン、ポン」と音を立てて練習し、お化けと間違えられた逸話があります。名選手はみな人知れず密かに練習していたということです。(文責 総務委員会)

「友だちの友だちは、皆友だちだ」 澤雄二会員

この「笑っていいとも」のテーマは、実は社会学の大変興味深いひとつの仮説によって証明されていることをご存知ですか?それは「6次の隔たり」(Six Degrees of Separation)という仮説です。全ての人や物事は6ステップ以内で繋がっていて、友達の友達を介して世界中の人々と知り合いになることが出来るという仮説です。

「6次の隔たり」は1990年代に「スモールワールド理論」として数学的に証明されました。例えば、この理論によると、私が友人の1人に23人の連絡先を伝えて、その友人が別の友人に23人を紹介したとすると、6人目が終

わったところで1億3000万人の日本の人口を超える友達ができるのです。SNSの多くのネットワークサービスは、この理論が下地となっています。テレビ番組が実験しました。「与那国島で、最初に会った人に友人を紹介してもらい、何人めで明石家さんまに辿り着くか」結果は……7人でした。

プロバスクラブは多摩市の人の生活を豊かにするための奉仕活動も大事な活動です。この時の“多摩市の人”とは、実は自分とはわずか「6次の隔たり」しかない大変身近な人々なのです。この理論を考えるとプロバスクラブ活動の意義・深さに改めて思い当たります。

当東京多摩プロバスクラブは5月22日(水)にパルテノン多摩にて、28名の来賓のご出席を仰ぎ、創立15周年記念式典・祝賀会を開催しました。その際、高村弘毅会員により記念講演が行われ、下記に掲載します。

「気候変動に関する政府間パネル」の問題点

高村弘毅会員

1988年に気候変動・地球温暖化に関する議論を世界の科学者が話し合うために、「気候変動に関する政府間パネル」(IPCC)を開くことになった。これは「国連環境計画」(UNEP)と「世界気象機関」(WMO)が共同で設置した機関である。



2015年12月にフランス・パリで開催されたCOP21(国連気候変動枠組条約第21回締約国会議)において、各国が2025年/2030年に向けた京都議定書以降の新たな温暖化対策の目標案を、世界の排出量の1/3にあたる国々がその概要を国連に提出しています。

他国の目標案も2015年3月末に国連に提出している(国連気候変動枠組条約事務局資料)。主題は地球温暖化効果ガスの排出を京都議定書で先進国だけでなく、途上国にも課せようとする提案がなされた。

地球温暖化の初期の定説は、CO₂増加の効果が人口誘因のIPCC説が定説となっている。しかし、地球の温度変化は雲の量に大きく影響されることはIPCC説に委ねるまでもない。温暖化ガスの雲の約90%は水蒸気であり、CO₂は水分に較べると微量である。CO₂効果ガスは、産業革命以前に約280ppm(1/100万)であったものが1990年代に約380ppmとなり、その間に100ppm増加し、温度は0.4℃上昇していることは自明の理である。

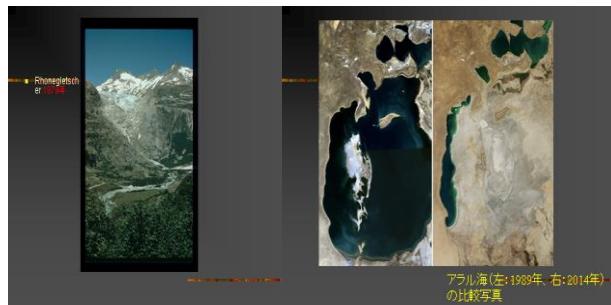
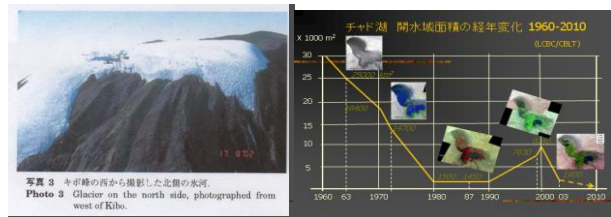
第5次によると今世紀末には最大で4.8℃気温が上昇し、海面が82cm上昇するという。この上昇現象や、過去50年間の温度上昇についてIPCCは、GCMモデル(地球温暖化の原因となる雲量増減の計算モデル)では人為起源のCO₂以外では説明できないとしている。しかし、丸山茂徳(東京工業大学教授)は、この程度の変化は銀河系宇宙線起源の雲の0.2%減少と太陽活動の活発化の結果から十分説明できると指摘する。

その理由として温暖化の自然起源の効果要因は少なくとも40~60%が働いているはずなのに、IPCCのGCMモデルは人為起源を主体としたもので、自然界起源、特に銀河系宇宙線と地球磁場などによる雲発生メカニズムが加味されていないという。もしこの丸山説が正論ならば、京都温暖化ガス排出枠締約会議や洞爺湖サミット、並びにパリ会議での2050年目標の排出枠そのものを見直さなければならぬことになる。

IEA(国際エネルギー機関)の試算によると、世界のCO₂換算温室効果ガスは、現在280億m³であるが、無対策でい

ると2050年には620億m³になるという。そこで地球上の人為起源のCO₂を2050年までに現在の半減、すなわち排出量140億m³を各国が抑制枠を分担しようというのが洞爺湖サミットの計画であった。これは現在の世界人口1人あたり排出量にすると、先進国1/7、開発国4/7に相当する。しかし地球温度の上昇要因に自然起源が含まれているとすれば不可抗力の部分もあり、温度抑制を人間活動の状況次第にもよるが、丸山氏やネットの文献によると21世紀末~22世紀には地球が寒冷化するという説も否定できない。

しかし、2018年パリのCOP24には、京都締約国会議の基盤となったIPCCのGCMモデルが、丸山氏らの宇宙影響説もあり修正され、人為的影響説90%、太陽・宇宙系影響説10%を定説に変更した。やはり、主因温暖化ガスはCO₂、CH₄、NO_xなどのGreen House Gasesであることになる。



左上：キリマンジャロの氷河。 右の上：チャド湖の水位変化
左下：ヨーロッパアルプスの氷河の後退
右下：アラル海の衰退
下：タクリマカン沙漠のニヤ遺跡近傍の埋没住居



環境への影響としては、気象異常による土地の変化、沙漠化とその拡大、陸地淡水の減少と塩類化、水資源の偏在と国際紛争、海水位上昇と陸地の減少、海・陸における生態系の変化と生産物の激変、人口増加と食糧不足問題、難民の増加と国際紛争、食糧生産地域の変化と紛争など、多くの問題が発生することが想定できる。

最後に注目すべきことは、文明は温暖期に栄え、寒冷期に飢饉や衰退が起きている事実があることを示唆しておきたい。

◇◇◇ 会員の活動 ◇◇◇

江戸しぐさのいろいろ

滝川道子会員

・「足組みしぐさ」と「腕組みしぐさ」

私たちは、知らず知らずのうちに多くの人たちと袖すり合って生きています。江戸では人間と書いて「じんかん」と読ませていたそうですが、人と人にはよい「間合」が必要なこと、独りでは生きていけないことを気づかせるためだったような気がします。



今回のテーマは「足組みしぐさ」と「腕組みしぐさ」です。江戸しぐさは「商人道」であり、「繁盛しぐさ」ともいわれました。無礼を慎み、節度を守る心得の一つでした。商人がお客様を迎えるときに足組みをしていたら、相手はどう思うでしょう。人と会っているとき、特に目上の人と会っているとき、足を組むのは相手を軽く見る行為になります。足を組むのはリラックスして縁台などで将棋を指すようなときだけ。第一、姿勢が悪くなり、骨格がゆがんで健康によくなく、商談には禁物でした。

商人にとって「腕組み・足組みは衰退のしるし」とされました。にこやかに胸を開いてお客様を迎えなくてはならないのに、商人が腕組みしては、お客様は店へ入るところか店から遠ざかってしまいます。腕組みは、無意識のうちに防御態勢をとっている姿、ともいわれます。これでは相手は打ち解けてくれません。私たちも、日常生活のなかでこんな仕草がくせにならないよう、注意しなくてはならないでしょう。



腕組み・足組み 衰退のしるし

・意識して元気に生きること

江戸しぐさの「いき」は京都の「粋」とは違って「生きる」の「生き」。集団になると「意気投合」の「意気」だといえます。今の人には会合などがあるとき雨や雪が降ってくると「私もう行くのをよすわ」と言い出したりしますが、そんなとき江戸っ子はよくこう言いました——「そいつはいけない。あっしが行ってなんとかしやしょう」そう言って飛び出していくのです。「ダメでもともと」といつも変わらず元気に生きていくのが、江戸っ子の心意気でした。

人生に「意気」を感じて「生きる」とは、意識して元気に生きることです。「気」は元気の「気」。元気でないと、何をしても力が入りません。江戸っ子は「気が滅入ると身体にさわる」と言って、「一に睡眠、二に睡眠、三・四がなく五に赤茄子(トマト)」を心がけていたそうです。睡眠をたっぷりとして、栄養をしっかり摂る——これが生き生きと暮らすもと。苦しいときも楽しいときも、いつも変わらず元気が良いのが江戸っ子の「意気」なのです。——越川禮子著『思いやりの心・江戸しぐさ』より

◇◇◇ ハッピーバースデー ◇◇◇

誕生日を迎えられました！



7月



8月

左から鈴木泰弘・滝川道子、高村弘毅・阪東照子・上田清各会員各位から一言；

鈴木；75歳 少しは人生慣れたかい なんの まだ ととも……。

滝川；これからの人生の課題 料理、読書、人に会うこと。

高村；誕生日は1937年8月15日で終戦日にあたり戦没者に黙祷。

阪東；私の後ろに、92年の轍あるも立ち止まり度きが今の本心。

上田；令和の時代も頑張ります。

—ハッピーバースデーのプレゼント—

滝川道子

今回はボールペンとメモ用紙

・手作りメモ用紙 下欄に氏名入り(漢字、ひらがな、ローマ字の3種類)。

手に取られた方は「お！いいなあ」とおっしゃいます。「私」の友人へのちょっとしたお礼に差し上げて喜ばれております。

・ボールペン グリップの部分は手作りで綺麗な液体入り。世界に一つ「私のボールペン」。



◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

令和元年度初の会報第86号をお届けします。気分一新の新年度を迎えて、新理事はじめ会員一同の熱意が伝わってくる会報です。○冒頭のごあいさつで北村克彦新会長が、「もっと知りたい」の想いで、人生100年時代を楽しもうと、強く呼びかけています。○同じ内容が、前会報からの続編講話で、大橋周治氏がその見事なお手本ぶりをご披露されています。それにつけても氏のタフな心身には驚かされるばかりです。○一方、野球好きの人には丸井定郎氏の講話は、懐かしくて、しかも私話満載でたまらない内容だったことでしょう。○寄稿の澤雄二会員の「友だちの友だちは、皆友だちだ」は、深くて高次なお話内容で、紙面不足の感すら覚えました。○今年の夏の台風10号の長雨、異常な暑さ続きを、身に染みて体験した我々には、高村弘毅会員の先の15周年記念講演の「気候変動に関する政府間パネル」の問題点は、難しい格調高い学術内容でも、身に染みて納得されます。○納得ついでに、滝川道子会員のシリーズ「江戸しぐさ」の貴重な教訓と、○7、8月に誕生日を迎えられた諸氏の短い一言で、第86号会報が締め括られて、爽やか気分の方々歳です。

さて読後の皆さんは如何でしたか。

(広報委員 山田正司会員記)